



上から一番人気のエアナイフタイプ、付加価値が高いディスクタイプ、販売実績が増えている産業用タイプ

洗淨機は産業用も実績増

TGM カスタマイズで要望対応

TGM(東京都千代田区、弘中崇社長、03・6261・1260)は、台湾・LCM(LICHUANG MACHINERY)社のガラス洗淨機を販売している。欧州メーカーの洗淨機では難しい、顧客の細かい要望に合わせてサイズ、安全機能などをカスタマイズできるのが特徴。エアナイフ、ディスク、スポンジなどさまざまなタイプがある。建築用だけでなく産業用にも対応しており、国内で販売実績が増えている。産業用ではガラス表面に傷が付くのを予防するため、ガラス搬送ローラーを円すい形状にして特殊素材を使用するなど、これまでの実績で蓄積された豊富な知見で、顧客の用途に最適な洗淨機を提案する。

欧州メーカーなど多くのメーカーの洗淨機は、サイズのラインアップが既定の品種しかないこと

が多い。そのため、日本では工場のスペースの閑係で、既製品が適さない事例もある。LCM社の

洗淨機は、工場のスペースに合わせて設備のサイズをカスタマイズすることが可能で、日本でも評価が高い。

近年、ガラスの加工品質に対する要求が高まっており、同社でもガラス欠点検査システムの引き合いが増えているという。高い精度でガラスの欠点を検出するためにもガラスの洗淨、乾燥が重要で、洗淨機には高い洗淨性能、乾燥性能が求められている。LCM社の洗淨機は洗淨性能を上げるためのブラシの追加、乾燥性能を上げるためのエアナイフの追加、安全機能のカスタマイズなど

に対応する。

エアナイフ、ディスク、スポンジなどさまざまなタイプがある。建築用だけでなく産業用に対応した設備もあり、国内で販売実績を伸ばしている。特に、産業用はガラス表面に傷が付くのを予防するため、ガラス搬送ローラーを円すい形状にして特殊素材を使用するなど、これまでの実績で蓄積された豊富な知見を基にした、用途に最適な提案が可能。

LCM社は1982年創業で、ガラス業界で30年以上の実績がある。台湾での社名は金吉利機械。認知度向上のため、

2017年から海外ではLCMの社名を使用している。台湾で製造し、国内向け60%、海外向け40%の割合で販売する。海外にも多数の納入実績があり、600台以上を販売。TGMが日本での総代理店を務める。